

東京都現代美術館美術資料収集方針

21 世紀の美術文化を担う東京都現代美術館の美術資料（美術作品その他美術に関する資料、図書等）の収集に当たって、その方針を定め、首都東京、国際都市東京の美術館にふさわしい美術資料の収集を図り、常設展示の一層の充実を目指す。

1 収集の基本的考え方

東京都現代美術館は、国内外の現代美術を中心に次の視点から資料収集する。

- (1) 首都東京の視点から、東京都現代美術館の常設展示が、わが国の文化的自己表現となるように、日本の優れた美術資料を収集する。
- (2) 国際都市東京の視点から、東京都現代美術館が国際文化の拠点となるように、友好都市を含む諸外国の美術資料を収集する。世界各国及び地域の美術資料も収集する。
- (3) 現代社会における美術表現の多様化に対応するために幅広い分野で収集する。
- (4) 現代の美術がどのような変遷をたどって生まれてきたかを知る上で必要な近代の美術資料を収集する。
- (5) 収集は、次の方針に基づき計画的に行う。

2 収集対象及び分野

収集対象及び分野は次のとおりとする。

(1) 収集対象

ア 日本の現代美術の作品及びそれらを明確にとらえるために必要な、友好都市を始めとする現代の世界各国及び地域の美術資料

イ 現代美術の形成を考える上で必要な近代日本及び海外の美術資料

(2) 収集分野

ア 絵画・版画等の平面芸術（日本画、油彩画、水彩画、素描、版画等）

イ 彫刻等の立体芸術（木彫、石彫、ブロンズ、インスタレーション等）

ウ 映像メディアによる造形表現（写真、ビデオ、フィルム、コンピュータ映像等）

エ 工芸（陶芸、染色、ガラス等）

オ デザイン（印刷デザイン、工業デザイン等）

カ 建築（図面、模型、記録写真等）

キ その他の造形芸術

ク 二次資料（模写、下絵、版、制作用具、作家の手紙、図書資料、パフォーマンスの映像記録等）

3 収集方法

収集は、購入、寄贈及び寄託等によるものとする。収集に当たっては、学識経験者を中心とした「東京都現代美術館美術資料収蔵委員会」の意見を聴くものとする